

6. チーズ、ホエー)

三、結語

たちまちにして牛乳禮讀者となつたり、森永ひいきになつたりして、何だか研究的態度(學のためにひたすらにつき進んで行く態度)から遠ざかつて行くやうな感がせないでもないが、とにかくこの佐賀縣の片田舎の草深い山村に設置された煉乳工場の全貌を世の明るみへ出したと言ふ念願が多年の間私の腦裡に秘められてゐたが、この度機會を得てつまらぬながら材料を集め得たものの中からまとめて見たまでである。要するに現在のままの有様では到底地方農家經濟の先頭に立つて突進して行くべき力は持ち得ないと言ふことに結んで愚筆を擱くことにする。(九、三、一)

新著紹介

○地理論叢

第三輯、京都帝國大學文學部地理學教室編

古今書院發行

定價二圓八十錢

京都帝國大學地理學教室の努力の結果、年々尠大な論叢が

出版されるのは誠に喜ぶべき事實である、第三輯には岩尾氏の島原半島の地誌、川上氏の印旛沼の地誌、小牧氏の砂丘作業史の第一回報告、村山氏の越後粟生島の地理、渡邊氏の岡山灣平野の埋立開發の五篇が收められてある、卷末に織田氏や松井氏の研究ものつてゐて新進學徒の日々研學の結果が明かにされてゐるのは慶祝に堪えない、さうしてかうした書物の出版を可能ならしむる我國地理學界の讀者層の多いことに關して一層の祝福を獻じたい、最後に本書には京大地理學教室秘藏の古地圖目錄が公開されてゐることを特記しておきたい。(藤田)

○文化地理學の諸問題

西龜正夫著

古今書院發行

定價一圓二十錢

人文地理學講義、農業地理、地理教育の諸問題を出して其精力絶倫を示めされた西龜氏は今亦この快著を江湖に提供された、序説の外に文化概観、教化、藝術、道德、宗教、言語、文字、慣習といふ八章に亘つて氏の見解が示されてゐる、まづ古代文化傳播の交通路を明かにし、やがてそれの落つた地域性を明にせんことをつとめた、しかし日本の國民道德を「金く環境によつて培はれたもの」と説明する點に於てはあまりに地理的要素を重じすぎてゐるやうにも考へられる、問題は廣汎であるのに、論ずる所は小冊子である、自から説て詳ならざるを得ないことは著者の恨とする所であることを信じ併せてかうした方面の最初の輸入をされた努力に敬意を表す